

# 地域の課題解決目指して

町集落支援員辞令交付式

人口減少や高齢化の進行が著しい地区の状況把握、新たな地域自治コミュニティ活動の支援を目的として町集落支援員への辞令交付式が4月2日(月)、役場町長室で行われ、内海俊美さん(派立)と赤石博満さん(派立)に濱館町長から辞令が手渡されました。

町長は「お二人には、集落対策が喫緊の課題となる下前地区・折戸地区の集落を支援していただきます。下前・折戸集落のみならず、この中泊町の未来にかかわるとも重要な業務ですので、よろしくお願います」と激励の言葉を贈りました。両支援員は「地域にいて危機感を感じている。集落が持続していけるようがんばっていききたい」と意気込みを語りました。

支援員は下前と折戸地区の集落の状況の調査、課題の整理、状況把握などを行い、集落のあり方について話し合い、必要と認められる施策を住民と一緒に実施することで、集落の問題を協働しながら解決を図っていきます。



濱館町長から激励



辞令交付の様子

## みんなで祝う誕生日

3月「バースデー列車」

3月生まれの乗客を祝う「バースデー列車」が3月21日(水)に運行されました。株式会社アクトプランが主催し、3月生まれの人やお祝いしたい人、津鉄を楽しみたい人などが一緒に津軽鉄道に乗りこみました。

中泊町と五所川原市からあわせて55人のうち3月生まれの参加者は7人。津軽中里駅を出発した車内では、津軽半島観光アテンダントによる各駅の特徴や見どころ、撮影スポットの紹介や津鉄応援直売会の桑田ミサオさん(五所川原市)の手づくりお菓子のプレゼントがありました。3月生まれの人を代表して、この日が誕生日の佐藤イネ子さん(薄市)には、花束やケーキが手渡されました。お祝いされた人たちは「今日はたくさんの人たちに祝ってもらって感激。家族にお祝いされるのとは違ったうれしさだ」と笑顔で話していました。

津軽中里駅に戻ってからは、駅ナカにぎわい空間でおでんなどを食べながら交流会をしました。バースデー列車に乗った人は「お祝いしたりされたり、様々な年代の人と交流できて楽しかった。和気あいあいとした雰囲気もよかったし、また開催してほしい」と笑顔で話していました。



代表して佐藤さんに花束



車内は和気あいあいとした雰囲気

# 「ロボコン大賞」受賞報告

こどもり少年少女  
発明クラブ

2月10日(土)六ヶ所村体育館で第19回青森県・げんねんジュニアロボットコンテストが開催され、こどもり少年少女発明クラブ(会長・相澤英知)から7人がエントリーしました。

各クラブで構成される混成チーム部門、パフォーマンス審査があるチーム対抗部門に出場したメンバーは、自分たちで作ったロボットを巧みに動かしたり、創意工夫したパフォーマンスを披露していました。

イカ釣り漁船を再現した横野開くん(小泊中2年・当時)が最高賞の「ロボコン大賞」に選ばれました。

受賞した横野くんは、2月27日(火)に役場を訪問し、濱館町長に大会結果を報告しました。町長は「大賞受賞おめでとう。細部までこだわっていて、本物そっくりだ」と驚いていました。横野くんは「手伝ってくれたクラブのメンバー、指導員に感謝しています。最後に大賞をとることができて嬉しい」と受賞を喜んでいました。

2月24日(土)には閉講式が行われ、今年度の活動を振り返りクラブのメンバーらは「ロボット作りは難しかったが、楽しかった。次はロボコン大会で上位入賞したい」と意気込みを語りました。



大賞を取ったロボットと記念写真



慣れた手つきを披露



初めての挑戦

その後、熊木敏彦氏を講師に迎え、最後の講座「そば打ちに挑戦！」が行われました。メンバーらは熊木氏の説明を聞きながら、そば粉を力強くこねていました。その後、自分で打ったそばを食べた子どもたちは「美味しくできてよかった。次はもっと上手に作りたい」と話していました。

この後、熊木敏彦氏を講師に迎え、最後の講座「そば打ちに挑戦！」が行われました。メンバーらは熊木氏の説明を聞きながら、そば粉を力強くこねていました。その後、自分で打ったそばを食べた子どもたちは「美味しくできてよかった。次はもっと上手に作りたい」と話していました。

## 明るく・楽しい・未来への町づくり

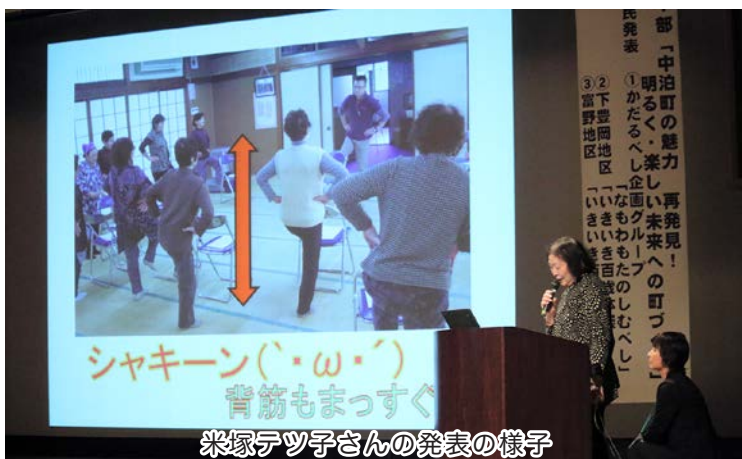
ささえあう町づくり講演会開催

これからの「ささえあう町づくり」の仕組みに理解を深めてもらおうと、3月24日(土)に町総合文化センターパルナスで「第3回ささえあう町づくり講演会」が開催されました。

オープニングセレモニーでは、ベエ子ちゃんによるダンスが披露されました。第一部では、役場福祉課と包括支援センターから町の現状や認知症初期集中支援チームの説明が行われました。

次に、昨年11月に中里・小泊で行われた「みんなでかたるべし中泊」で考案された企画の中から、特に好評だった「なもわたのしむべし！」が発表されました。地域の集会所や旧校舎を活用し、多世代の交流の場を作ることを目的とした取り組みに、会場からは拍手が起きました。また、住民主体の通いの場の例として、下豊岡地区と富野地区の「いきいき百歳体操」の発表が行われ、米塚テツ子さん(下豊岡)と坂本チツ子さん(富野)が通える場があることの大切さを伝えました。

第2部では介護を題材とした映画「ケアニクあなたでよかった」が上映されました。感動の物語に涙を流す来場者も多く、上映が終わると拍手が起きました。参加者らは「とても感動した。介護のイメージが変わった。家族のことを考えるきっかけになる」と話していました。



米塚テツ子さんの発表の様子